

會 務

土木學會誌 第十六卷第二號 昭和五年二月

土木學會定時總會議事概要

昭和五年一月十八日午後三時半より東京市麹町區丸ノ内三丁目帝國鐵道協會に於て定時總會を開く、出席者會員准員學生員共百五名、田邊會長議長席に着き開會を宣し丹治主事は昭和四年度事業報告を牧野主事は同年度收支決算報告並貸借對照表を代讀し出席會員の承認を得たり。

該事業報告及收支決算報告並貸借對照表の全文下記の如し。

昭和四年度土木學會事業報告

理 事	田 邊	朔 郎			
同	中 川	吉 造			
同	八 田	嘉 明			

昭和四年度中事業の概要を下に報告す

一、 會 合

昭和四年一月十九日午後三時半より東京市麹町區有樂町一丁目一番地帝國鐵道協會に於て定時總會を開く出席會員百三十名にして會長岡野昇君議長席に着き事業及決算報告を爲し終つて岡野會長の講演ありたり、上記以外同年度中の會合は役員會十二回、講演會二回、編輯委員會十三回、混凝土調査會幹事會十四回、用語調査會幹事會十四回なり。

二、 役員改選及職員就任

定款第十一條に據り會長岡野昇君、副會長井上秀二君、常議員井上範君、同大岡大三君、同加賀山學君、同中村謙一君退任につき前項定時總會に於て改選を行ひ當選したる役員の氏名下の如し。

會 長	田 邊	朔 郎	君		
副會長	八 田	嘉 明	君		
常議員	久 保	田 敬	一君		
同	近 新	三 郎	君		
同	眞 田	秀 吉	君		
同	前 川	貫 一	君		

同年同月二十二日規則第二十五條に據り職員の推薦を行ひ左の通就任せり。

主 事	丹 治	經 三	君		
-----	-----	-----	---	--	--

同	村	幸	長君
編輯委員長	黑	河 内 四	郎君
編輯委員	菊	池 英	彦君
同	鈴	木 雅	次君
同	田	中 豐	君
同	田	中 寅	男君
同	平	山 復 二	郎君
同	山	中 良	樹君
同	三	浦 七	郎君
同	山	口 昇	君

同年八月常議員米山辰夫君、同年四月村幸長君、同年六月編輯委員山中良樹君並同年九月編輯委員平山復二郎君は孰れも地方へ轉任の爲辭任に就き其の後任として主事に會員牧野雅樂之丞君、編輯委員に會員井上隆根君並岡田實君就任せり。

三、調 査 事 項

前年度中より調査中の混凝土調査會及用語調査會は引續き調査審議中なり。

四、會 誌 發 行

昭和四年一月より本會々誌の發行を月刊とし同年度中第十五卷第一號より同第十二號迄及會員名簿を發行せり。

五、萬國工業會議並同會議出席の海外土木關係者招待會

工學會主催により同年十月二十九日より同十一月七日に互り東京市に於て萬國工業會議を開催せり、同會期中十一月四日淺野紫雲閣に於て本會、港灣協會及道路改良會の三會聯合を以て同會議海外會員中の土木關係者を招待し午餐會を催したり、出席者九十三名ありたり。

六、登 記 事 項

昭和四年一月十九日の定時總會に於ける理事の改選及資産の總額を金拾貳萬九千六百五拾貳圓六拾六錢と變更の件は同年一月二十四日に、又本會事務所所在地地番變更に依り所在地を東京市麴町區丸ノ内二丁目十八番地と變更の件は同年六月四日に孰れも其の登記を了せり。

七、土 木 賞 牌 の 贈 呈

土木學會誌第十四卷第三號に掲載せる會員山口昇君の Thermal Flexure of Thin Plate heated on one Surface Extentional stresses taken into Account. と題する論文に對し昭和三年度第一土木賞牌を贈呈せり。

八、視 察 旅 行

昭和四年四月二十八日より同二十九日に互り京阪地方に於ける土木工事其の他の視察旅行を行ひ會員百七十一名の参加ありたり。

九、關西支部事業の概要

本年度中關西支部に於ける會合は大會一回，役員會七回，講演會一回，講話會三回なり。又愛宕山電鐵及同ケーブルカーの見學旅行を催したり。

一〇、會 員 數

昭和四年度中への入會者は會員二十六名（内准員より轉じたる者十八名）准員百九十三名（内學生員より轉じたる者六十八名）學生員六十六名にして合計二百八十五名退會者は會員十二名准員六十三名學生員二十三名にして合計九十八名死亡者は會員九名准員十名にして合計十九名なり。

昭和四年十二月末日に於ける現在數は會員千百五十一名准員千八百三十名學生員百十四名賛助員二十一名にして總計三千百十六名なり。以上

昭和四年度土木學會決算報告

理 事	田 邊 朔 郎
理 事	中 川 吉 造
理 事	八 田 嘉 明

收 支 計 算			
收 入 ノ 部			
科 目	金 額	摘 要	
會 費	38 843.17		
内會員會費	18 877.50		
准員會費	19 207.24		
學生員會費	758.43		
利子及雜收入	14 360.83		
内預金利子	800.08		
基金利子	2 649.89		
雜 入	598.59		
廣告料收入	10 312.27		
入 會 金	1 126.00		
内會員入會金	160.00		
准員入會金	834.00		

學生員入會金	182.00	
會費一時納付金	160.00	
寄 付 金	1 000.00	
前年度繰越金	7 759.38	
合 計	63 249.38	
支 出 ノ 部		
事 務 費	16 394.55	
内通信費	453.15	
俸給諸給手當	8 212.97	
事務室及會場費	3 332.10	
消耗品費	192.48	
諸印刷費	1 177.30	
振替貯金料	979.58	
雜 費	2 046.97	
會 誌 費	22 506.09	
内會誌印刷費	18 281.00	
廣告印刷費	2 188.31	
速 記 費	40.00	
翻譯 費	97.80	
製 圖 費	140.60	
運 送 費	1 187.80	
雜 費	570.58	
會 費	1 200.00	工學會費 200 圓 萬國工業會議分擔金 1 000 圓
圖書及備品費	102.22	
調 查 會 費	2 275.01	
内コンクリート調査會費	1 144.63	
用語調査會費	1 130.38	
臨 時 費	1 545.86	
支 部 交 付 金	1 500.00	
保 證 金	400.00	
基金 = 編入金	160.00	會費一時納付金
小 計	46 083.73	

事業基金編入金	10 000.00	
翌年度繰越金	7 165.65	
小計	17 165.65	
合計	63 249.38	
基金計算		
収入ノ部		
前年度繰越金	104 349.48	
内 ^{吉市} _{沖野} 兩博士還歴記念基金	17 397.45	
故山崎博士記念基金	1 733.89	
故白石博士記念基金	14 962.26	
廣井博士土木賞牌基金	477.10	
原田博士基金	3 061.46	
廣井博士還歴記念基金	6 682.54	
小川博士還歴記念基金	1 093.98	
故富田博士記念基金	544.64	
故石黒博士記念基金	6 618.57	
故近藤虎五郎博士記念基金	4 107.81	
故中島博士記念基金	3 169.90	
故阪田貞明君記念基金	1 118.11	
故岡崎博士記念基金	1 790.69	
故太田圓三君記念基金	2 556.83	
關西支部維持基金	22 000.00	
基金	17 034.15	
基金=編入金	160.00	會費一時納付金
事業基金編入金	10 000.00	
利子收入	4 028.45	
内 ^{吉市} _{沖野} 兩博士基金利子	862.50	公債
故白石博士記念基金	765.00	〃
故山崎博士記念基金	81.50	〃
廣井博士土木賞牌基金利子	25.00	〃
原田博士基金利子	160.00	〃
廣井博士基金利子	350.00	〃

小川博士基金利子	47.50	定期預金
故富田博士基金利子	23.75	〃
故石黒博士基金利子	350.00	公債
故近藤虎五郎博士基金利子	214.72	〃
故中島博士基金利子	142.50	定期預金
故阪田貞明君基金利子	62.48	公債
故岡崎博士基金利子	100.00	〃
故太田圓三君基金利子	125.00	定期預金
基金利子	718.50	公債
合 計	118 537.93	
支 出 の 部		
經常費に組入金	2 649.89	利子の 2/3 但近藤博士分 1/2
翌年度へ繰越金	115 888.04	利子 1/3 を各基金に編入せるもの
内 古市 兩博士還歴記念基金	17 684.95	
神野		
故白石博士記念基金	15 217.26	
故山崎博士記念基金	1 761.05	
廣井博士土木賞牌基金	485.43	
原田博士基金	3 114.79	
廣井博士歴選記念基金	6 799.20	
小川博士還歴記念基金	1 109.81	
故富田博士記念基金	552.55	
故石黒博士記念基金	6 735.23	
故近藤虎五郎博士記念基金	4 215.17	此の分利子 1/2 基金に編入
故中島博士記念基金	3 217.40	
故阪田貞明君記念基金	1 139.03	
故岡崎博士記念基金	1 824.02	
故太田圓三君記念基金	2 598.49	
關西支部維持基金	22 000.00	利子は支部収入につき編入せず
基 金	17 433.66	
事 業 基 金	10 000.00	
合 計	118 537.93	
繰 越 金 内 訳		

翌年度へ繰越金	7165.65
各基金繰越金	115888.04
合 計	123053.69
内 譯	
有價証券	68822.47
信託預金	22000.00
定期預金	15000.00
郵便貯金	4393.40
振替貯金	4179.51
當座預金	8589.24
現 金	69.07

五利分公債額面 78000 圓貯金局及 三菱保管

安田信託

三菱

貸 借 對 照 表 (昭和四年十二月三十一日現在)

貸 方 (負債)	借 方 (資産)
古市 兩博士還歴記念基金 17684.95	圖書及備品 5947.48
故白石博士記念基金 15217.26	敷金及保證金 920.00
故山崎博士記念基金 1761.05	未 收 入 金 7394.87
廣井博士土木賞牌基金 485.43	有 價 證 券 68822.47
原 田 博 士 基 金 3114.79	當 座 預 金 8589.24
廣井博士還歴記念基金 6799.20	定 期 預 金 15000.00
小川博士還歴記念基金 1109.81	信 託 預 金 22000.00
故富田博士記念基金 552.55	郵 便 貯 金 4393.40
故石黒博士記念基金 6735.23	振 替 貯 金 4179.51
故近藤虎五郎博士記念基金 4215.17	現 金 69.07
故中島博士記念基金 3217.40	
故阪田貞君記念基金 1139.03	
故岡崎博士記念基金 1824.02	
故太田圓三君記念基金 2598.49	
關西支部維持基金 22000.00	
基 金 17433.66	
事 業 基 金 10000.00	
繰 越 金 21428.00	
合 計 137316.04	合 計 137316.04

財 産 目 録

貸借対照表資産の部と同一に付省略す。

次で役員の変更を行ひ議長の指名せる開票立會人菊池英彦君、山口繁君、田村與吉君により投票の開票を爲したり、開票の結果は下記の如し。

會 長

三百三十九票 (當選)	中 川 吉 造君
五票	丹 羽 鋤 彦君
三票	那 波 光 雄君

副 會 長

三百〇三票 (當選)	眞 島 健 三 郎君
八票	名 井 九 介君
七票	眞 田 秀 吉君

常 議 員

百四十六票 (當選)	谷 口 三 郎君
百三十九票 (同)	木 津 正 治君
百三十一票 (同)	橋 本 敬 之君
百二十九票 (同)	平 井 喜 久 松君
四十八票	阿 部 美 樹 志君
三十四票	米 元 晋 一君
三十二票	小 野 基 樹君
二十一票	來 島 良 亮君

上記役員改選開票中に會長講演あり同講演終了後開票の結果を發表し午後五時二十五分閉會せり。續いて午後六時より有志晚餐會を催し出席者六十八名にして盛會裡に午後八時散會せり。

○土木學會關西支部役員の変更

昭和五年一月二十五日第三回支部大會に於て昭和五年度支部長並に商議員半數改選の結果本年度支部役員及職員次の如し。

支 部 長	坂 本 助 太 郎君		
商 議 員	高 橋 逸 夫君	商 議 員	清 水 淵君
〃	高 西 敬 義君	〃	平 野 正 雄君

商議員	永井專三君	幹事長	後藤佐彦君
"	松島寛三郎君	會計幹事	平瀬三雄君
"	古川淳三君	庶務幹事	鈴木義一君
"	近藤博夫君		
"	荒木文四郎君		
"	調所武光君		
"	三輪周藏君		
"	島重治君		

○昭和五年一月十三日役員會を開く、田邊會長、中川、八田の兩副會長、中山前會長、久保田、眞田、黒河内、牧野、福田の各常議員丹治、牧野の兩主事出席、田邊會長議長席に着き下記事項を決議せり。

△昭和四年度事業報告を承認すること。

△昭和四年度決算報告を承認すること。

△昭和四年度關西支部事業及決算報告を承認すること。

△昭和四年度に於ける優良論文として會誌第十五卷第三號に掲載せる會員田中豐君の On Strength of Columns with variable Cross Section なる論文に對し昭和四年度第一土木賞牌を贈呈すること。

其他一般會務に關する事項

○同年一月十四日編輯委員會を開く、黒河内編輯委員長、田中、菊池、三浦、山口の各委員出席會誌編輯上の協議をなせり。

○同年一月二十八日臨時役員會を開く、中川會長、眞島副會長、中山前會長、前川、久保田、近、橋本、木津、平井、谷口の各常議員、丹治、牧野の兩主事出席、中川會長議長席に着き下記事項を決議せり。

△職員推薦の件に關しては編輯委員として新に會員藤井眞透君を追加し其他は全部前任者を推薦すること。

調査會記事

用語調査會

○昭和五年一月十七日第十七回用語調査會幹事會を開く、中川幹事長及び村野、稻葉、中桐、榎部、糠澤、河口、鮫島、菊池の各幹事及中川、白石の兩囑託出席前回に引續き上水道及水力電氣之部に關し協議をなせり。

○同年一月十五日土木學會誌第十六卷第一號發行成規の手續を了し翌日より一般會員へ配布せり。

○准員桑原芳樹君，同上田富君，同八木鐵次君，同野村弘君は孰れも退會せり。

○昭和四年十二月十六日以降昭和五年二月十五日迄に於て入會を承認し名簿に登録したる者下記五十五名なり。

會				員			
○後藤	藤季	總君	渡邊	寬治	君	○竹下	巖之助
○清水	水武	雄君	○梅津	理次	君	井上	兼吉
○江守	守保	平君	田杉	佐十郎	君	松尾	守治
森	慶三	郎君	○後藤	憲一	君		
			准	員			
川口	一	二君	○林田	徳雄	君	寺田	健三
大津	武	夫君	○三宅	第三	郎君	前田	繁久
相馬	午	一君	奈良	清	君	大西	朝男
青柳	民之	丞君	澁谷	信太	君	田中	祐富
藤	沼	清君	玉置	巖	君	千葉	敏
○張	公	一君	中村	鶴藏	君	徐三	善
○市川	順	市君	大河	津壽之	助君	崔景	烈
黄	程	哲君	○橋本	孝之	君	飯吉	精一
			學	生	員		
奥山	鐵	雄君	西海	芳郎	君	井森	勇
森田	定	市君	大久保	隆治	君	片山	哲夫
川合	支	重君	倉山	俊一	君	桑原	彌壽
四野	宮	哲郎君	本城	信治	君	登川	圭一
大波		約君	奥村	芳定	君	加藤	六郎
菊池	朝	夫君	琴井	谷榮	君	武田	眞
手塚	三	郎君	徳能	明	君		

○昭和四年十二月十六日以降昭和五年二月十五日迄に於て寄贈並交換を受けたる雜誌其の他下記の通り。

寄贈の分

工務資料第 19 號
大阪港勢一斑

1 冊 鐵道省工務局
1 冊 大阪市役所港灣部

研究報告 Vol. IX. No. 4.	1 冊	八 幡 製 鐵 所
The Excavating Eng. No. 12, No. 1.	2 冊	三 井 物 產 株 式 會 社
滿洲電氣協會々報第 1 號	1 冊	滿 洲 電 氣 協 會
會 報第 6 號	1 冊	日 本 動 力 協 會
仙臺高等工業學校紀要第 1 號	1 冊	仙 臺 高 等 工 業 學 校
都市計畫及工場取締法改正 = 關スル參考資料	1 冊	東 京 商 工 會 議 所
Memoirs of the Ryojun College of Eng. Vol. II, No. 4, Vol. III, No. 1.	2 冊	旅 順 工 科 大 學
建築業協會々報第 12 號	1 冊	建 築 業 協 會
電氣ヴェクトル第 1 號及第 2 號	2 冊	電 力 需 給 促 進 會
水曜會誌第 2 號	1 冊	京 都 帝 國 大 學 工 學 部
試驗研究項目要覽	1 冊	學 部 探 鑛 冶 金 學 教 室
セメント概論	1 冊	資 源 局
工學彙報第 5 號	1 冊	永 井 彰 一 郎 君
ユアサ時報第 5 號	1 冊	九 州 帝 國 大 學 工 學 部
西尾式 Core Borer と東京市地質調査結果の第一報	1 冊	ユ ア サ 蓄 電 池 株 式 會 社
土木試驗所報告第 14 號	1 冊	西 尾 銈 次 郎 君
駿工第 1 號	1 冊	內 務 省 土 木 試 驗 所
名古屋工業會々報第 81,82 號	2 冊	駿 工 會
内外工業時報 1,2 月號	2 冊	名 古 屋 工 業 會
工場部記要第 5,6,7 號	3 冊	最 新 工 學 普 及 會
同第 3 號	1 冊	東 京 帝 國 大 學 工 學 部
工業第 1 月號	1 冊	北 海 道 帝 國 大 學 工 學 部
工業と社會第 1 號	1 冊	大 阪 工 業 會
工學 1,2 月號	2 冊	東 京 工 業 會
工業之大日本第 1 號	1 冊	東 京 工 學 社
工事畫報第 1,2 號	2 冊	工 業 之 日 本 社
國立公園 12,1 月號	2 冊	工 事 畫 報 社
帝國學士院記事第 9,10 號	2 冊	國 立 公 園 協 會
鐵道技術第 4 卷第 1,2 號	2 冊	帝 國 學 士 院
電氣製鋼第 1 號	1 冊	鐵 道 技 術 社
土木建築材料商報 1,2 月號	2 冊	電 氣 製 鋼 研 究 會
		東 洋 建 材 商 報 社

土木建築資料通信第 190, 193 號	2 冊	土木建築資料通信社
東京土木建築業組合報第 1,2 號	2 冊	東京土木建築業組合
日立評論第 1 號	1 冊	日立評論社
滿洲技術協會誌第 35 號	1 冊	滿洲技術協會
三菱電機第 1,2 號	2 冊	三菱電機神戶製作所
明電舎ジャーナル第 6 號	1 冊	守谷商會
シビル第 9 卷第 1,2 號	2 冊	シビル社
セメント界彙報第 225, 226, 227 號	3 冊	セメント界彙報發行所
ワット第 12,1 號	2 冊	ワット社
○交換の分		
衛生工業協會誌第 3 卷第 12 號第 4 卷第 1 號	2 冊	衛生工業協會
帝國鐵道協會彙報第 30 卷第 12 號第 31 卷第 1 號	2 冊	帝國鐵道協會
機械學會誌第 252, 253 號	2 冊	機械學會
建築誌第 528 號	1 冊	建築學會
工業要録第 5 卷第 12 號第 6 卷第 1 號	2 冊	工業資料調査會
工業化學雜誌第 1,2 冊及同歐文	4 冊	工業化學會
港灣第 1,2 號	2 冊	港灣協會
造船協會彙報第 45 號	1 冊	造船協會
造船協會雜誌第 93 號	1 冊	造船協會
鐵と鋼第 12 號及第 1 號	2 冊	日本鐵鋼協會
電氣學會雜誌第 497, 498 號	2 冊	電氣學會
日本建築士第 5 卷第 6 號第 6 卷第 1 號	2 冊	日本建築士會
日本鑛業會誌第 536, 537 號	2 冊	日本鑛業會
工政第 121 號	1 冊	工政會
地雲學研究所彙報第 3 冊	1 冊	地震研究所
業務研究資料第 11,12 號第 1 號	3 冊	鐵道省大臣官房研究所

雑誌閲覧に就ての會告

下記の雑誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は下記時間内御随意に御閲覧相成度候。

閱 覽 時 間

日曜日及祭日休、土曜日自午後一時至同四時、其他 自午後四時至同八時。

但し役員會、委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候。

備 付 雜 誌

Engineering	工	政
Engineering News-Record	港	灣
Le Génie Civil	國	際
Railway Gazette	建	築
衛生工業協會誌	時	論
機械學會誌	造	船
業務研究資料(鐵道大臣官房研究所)	協	會
建設	帝	國
建築雜誌	鐵	道
工學部紀要(東大、京大、九大)	と	々
工學報告(東北帝大)	電	氣
工業化學雜誌	學	會
工事畫報	電	氣
	製	鋼
	土	木
	建	築
	日	立
	評	論
	名	古
	屋	工
	業	會
	々	報
	滿	洲
	技	術
	協	會
	誌	誌
	其	他
	寄	贈
	雜	誌

廣 告 料 (東京市京橋區築地上柳原町八番地 東京第一通信社取扱)
電話京橋 872 番、振替東京 8069 番

普通廣告 一回一頁 40 圓 一回半頁 25 圓

指定廣告	裏表紙三面對向 及廣告初頁	一回一頁 60 圓
	裏表紙三面	一回一頁 150 圓
	色アート	一回一頁 75 圓

- 指定廣告は凡て一箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の一割引とす
- 同一廣告の連續掲載申込に對しては半箇年分五分引、一箇年分一割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす



中川吉造

會長
工學博士
中川吉造



八田嘉明

副會長
工學士
八田嘉明



真島健三郎

副會長
工學博士
真島健三郎

正 誤 表

(第十五卷 第十二號所載)

SPANNUNGEN DES DURCH REINE BIEGUNG BELASTETEN STAB-ECKES MIT AUS- GERUNDETER INNERER ECKE.

- Die erste Zeile der Fussnote ist zu streichen.
- Zeile 4 von unten : Statt F_x soll es F_y heissen.
- Zeile 12 von oben : Der Ausdruck in den runden Klammern ist zum Quadrat zu erheben.
- Zeile 1 von unten : Statt $\frac{\partial^2 F'}{\partial \theta^2}$ soll es $\frac{1}{r^2} \frac{\partial^2 F}{\partial \theta^2}$ heissen.
- Gl. (b) : Auf der rechten Seite soll es $-\frac{M}{a^2(1-\mu^2)}$ heissen.
- Zahlentafel 1 : $\alpha_3 = 3.7946$ (statt 3.7864) für $\mu = 0.4$ und $\alpha_4 = 0.1345$ (statt 0.2602) für $\mu = 0.01$.
- Zeile 3 von unten : Statt $\left(1 + \frac{r_0^2}{r^2}\right)$ soll es $\left(1 - \frac{r_0^2}{r^2}\right)$ heissen.
- Zeile 11 von oben : Statt α^3 soll es α_3 heissen.

(第十六卷 第一號所載)

再び平衡曲線による流速器に就て

列	誤	正
8	不知下知	不知不知
14	實驗綱	實驗綱

寄稿に関する注意事項

- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第送附す。
 - (2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 150 枚（本會誌 50 頁）程度とされたし、若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあるべし。
 - (3) 假名は平假名とし、數字はなるべくアラビア文字を用ひられたし。
 - (4) 歐字は特に明瞭に認むること。
 n と u , v と v , r と v , a と α , r と γ
其の他頭字と小字とを判然たらしむる事。
 - (5) 原稿には必ず冒頭に英文表題及内容梗概を添附されたし。
 - (6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。
 - (イ) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とす。
 - (ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。
 - (ハ) 方眼紙は青野のものを用ひ（黄色、赤色の野は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置かれたし。
 - (ニ) 圖表中の文字、數字は特に大きく肉太に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。
 - (ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。
- (7) 寫眞は特に明瞭なるものを送られたし。
 - (8) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし、尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。

算式其の他の記し方大體標準。

- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。 a/b と書き $\frac{a}{b}$ を避けること。 $(a+b)/(c+d)$ と書き $\frac{a+b}{c+d}$ を避けること。
- (2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。 $\frac{1}{3}x$ と書き $\frac{x}{3}$ を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$ と書き $\frac{a+b}{2}$ を避けること。 $\frac{a}{b+c/d}$ と書き $\frac{a}{b+c\frac{1}{d}}$ を避けること。
- (3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。
- (4) 名數は次の如く記し括弧の中の様を書くことを避けること。
83.4 尺（八丈三尺四寸）、7 吋（七吋）、35 錢（三十五錢）、13.56 圓（十三圓五十六錢）、1~4 時間（一乃至四時間）、88 326 噸（八萬八千三百二十六噸）、1929 年 1 月 1 日（千九百二十九年一月一日）。

新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配布致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合是一部に付下記金額振替口座東京一六八二八番に拂込み用紙通信欄に其旨記入請求せられたし

残 部 内 譯

第五卷一號二號	一	金	壹	圓
第六卷六號	同	金	壹	圓
第七卷二號三號四號	同	金	壹	圓
第八卷一號	同	金	壹	圓
第九卷一號二號三號五號六號	同	金	壹	圓
第十卷二號三號四號五號六號	同	金	壹	圓
第十一卷二號	同	金	壹	圓
第十二卷二號三號五號六號	同	金	壹	圓
第十三卷二號三號六號	同	金	壹	圓
第十四卷一號二號三號四號五號六號	同	金	壹	圓
第十五卷一號二號三號四號五號六號	同	金	壹	圓
同 七號八號九號十號十一號十二號	同	金	壹	圓
第十六卷一號	同	金	壹	圓
東京市内外交通に関する調査書	同	金	壹	圓
土木學會誌索引	同	金	壹	圓
震害調査報告書(一、二、三)	同	金	壹	圓

本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の住所の不明なるときは會誌の配布を始め其他通信上に差支候に付轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費支拂には差支なき様御配慮相成たし

會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に(拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事)御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月 第一期分二月徴收	自五月至八月 第二期分六月徴收	自九月至十二月 第三期分十月徴收
會 員	金拾八圓	金六圓	金六圓	金六圓
准 員	金拾貳圓	金四圓	金四圓	金四圓
學 生 員	金七圓五拾錢	金貳圓五十錢	金貳圓五十錢	金貳圓五十錢

新に入會したるものは月割算として入會の翌月集金を發す

會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支拂を拒絕し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配布を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手續一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年毎月十五日(印刷又は原稿等の都合に依り遅延する事あり)に發行し漏なく配付すべきに付未着の場合には一應本會に御照會相成たし従來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配布不可能のことあるべきに付御留意相成たし